



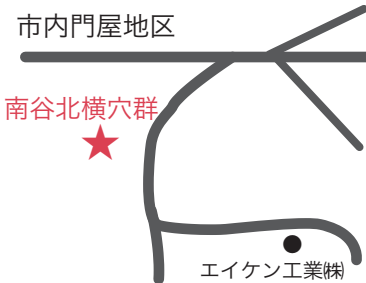
▲第5号墳入口の封鎖状況



▲南谷北横穴群出土土器類



▲第2号墳内部の状況



埋蔵文化財包蔵地 南谷北横穴群

History

キラリを再発見

鎌倉時代に再利用された横穴

南谷北横穴群は、門屋の南谷地区の丘陵南側斜面に立地しています。

第3・4号墳は以前から所在が分かっていたが、平成8年度に土採取工事に伴う発掘調査が実施され、第1号墳から5号墳の合計5基の横穴が確認されました。

第1～3号墳の内部には敷石があり、第1・2号墳からは棺を置くための台として使われたと思われる大きな石も発見されました。

第2号墳から須恵器8点と土師器盤1点、直刀1振、第5号墳から須恵器5点が副葬されており、すべて奈良時代の8世紀のものであり、当地域の最も新しい時代の横穴と考えられます。

また、第3号墳からは古墳時代の刀子1点と12世紀末頃の山茶碗と呼ばれる陶器が2点出土していることから、鎌倉時代になってから何らかの目的で横穴が再利用されたと思われます。

照 会 社会教育課 回0548㉓1129

Atomic

暮らしと原子力

新規制基準への的確な対応

今回は7月8日に施行された原子力規制委員会による原子力発電所の新たな規制基準の概要を紹介します。

新規制基準は東京電力福島第一原子力発電所の事故の教訓や海外の知見などを反映したもので、従来の基準に比べ特に耐震・耐津波性能が強化されています。中部電力はこの基準に沿った安全対策などを進めています。市でも県の点検に立ち会うなど、しっかりと現場を確認していきます。

過去最大津波を上回る対策

・過去最大を上回るレベルの津波を「基準津波」として策定し、基準津波への対応として防潮堤などの津波防護施設を設置すること、敷地を浸水から防ぐことなど。

さらには噴火や竜巻などの自然災害、火災などのあらゆるリスクに備えるため設計基準の強化を義務付けています。加えてシビアアクシデント（燃料損傷を伴う重大事故）対策として、炉心損傷や格納容器の破損防止、放射性物質の拡散を抑制する対策などとともに海外の知見をもとにテロ対策なども求めています。

・敷地の地下構造によって地震動が増幅することがあるため、地下構造をより詳しく三次元的に把握すること。・地盤のずれや変形に対する基準として、耐震設計上重要な建物や施設は、活断層のない地盤に設置すること。